

2024年1月28日

2023年度聖路加国際大学大学院

看護学研究科課題研究

パートナーの妊娠後から出産後に子どもを持つ過程において、
男性の育児の認識に関する文献検討

Men's Awareness of Parenting from Partner's Pregnancy to
Postpartum and of their Changing Roles after Having a Child:
A Literature Review

22MW008

久保埜麻子

要旨

「目的」

本研究は、パートナーの妊娠後から出産後に子どもを持つ過程において、男性の育児に対する思いや認識の変化を記述することを目的とした。

「方法」

医学中央雑誌 web (Ver. 6)、CiNii を用いて国内の文献を収集し、文献検討を行った。検索語は、研究のキーワードである「男性」「父親」「育児」「育児休業」「認識」に該当する用語とし、230 件がヒットした。選択・除外基準に則り 15 文献を選定した。文献の内容を精読した上で、男性の育児に対する思いや認識について記述されたコードを抽出し、カテゴリー、サブカテゴリーに分類した。

「結果」

分析対象とした 15 文献の出版年は 2006 年から 2022 年であった。パートナーが妊娠中の男性を対象に行った文献は 6 件、産後に行った文献は 9 件であった。パートナーが妊娠中の男性の育児の認識では、4 つのカテゴリーと 8 つのサブカテゴリーが抽出された。カテゴリーは、【育児・家事に関する思い】【妻との関係性への配慮】【産まれてくる子どもへの思い】【父親としての役割への思い】であった。パートナーが産後の男性の育児の認識として、8 つのカテゴリーと 18 のサブカテゴリーが抽出された。カテゴリーは、【家事・育児に対する理想とする男性の役割】【妻からの要望により育児・家事へ参加】【育児の困難感】【父親としての自覚】【子どもに対する愛情】【将来の生活の不安】【妻との新たな関係性の構築】【子育てと仕事の両立が困難】であった。実際に行っている育児では、2 つのサブカテゴリーが抽出された。

「結論」

パートナーが妊娠中から産後にかけての男性の育児に対する認識に変化があること、育児と仕事の両立への困難さを抱いていることが明らかになった。男性の育児参加を促進するためには、育児に関する情報の提供等男性が学習する機会を充実させること、また職場環境の柔軟性を向上させることが求められていると示唆された。